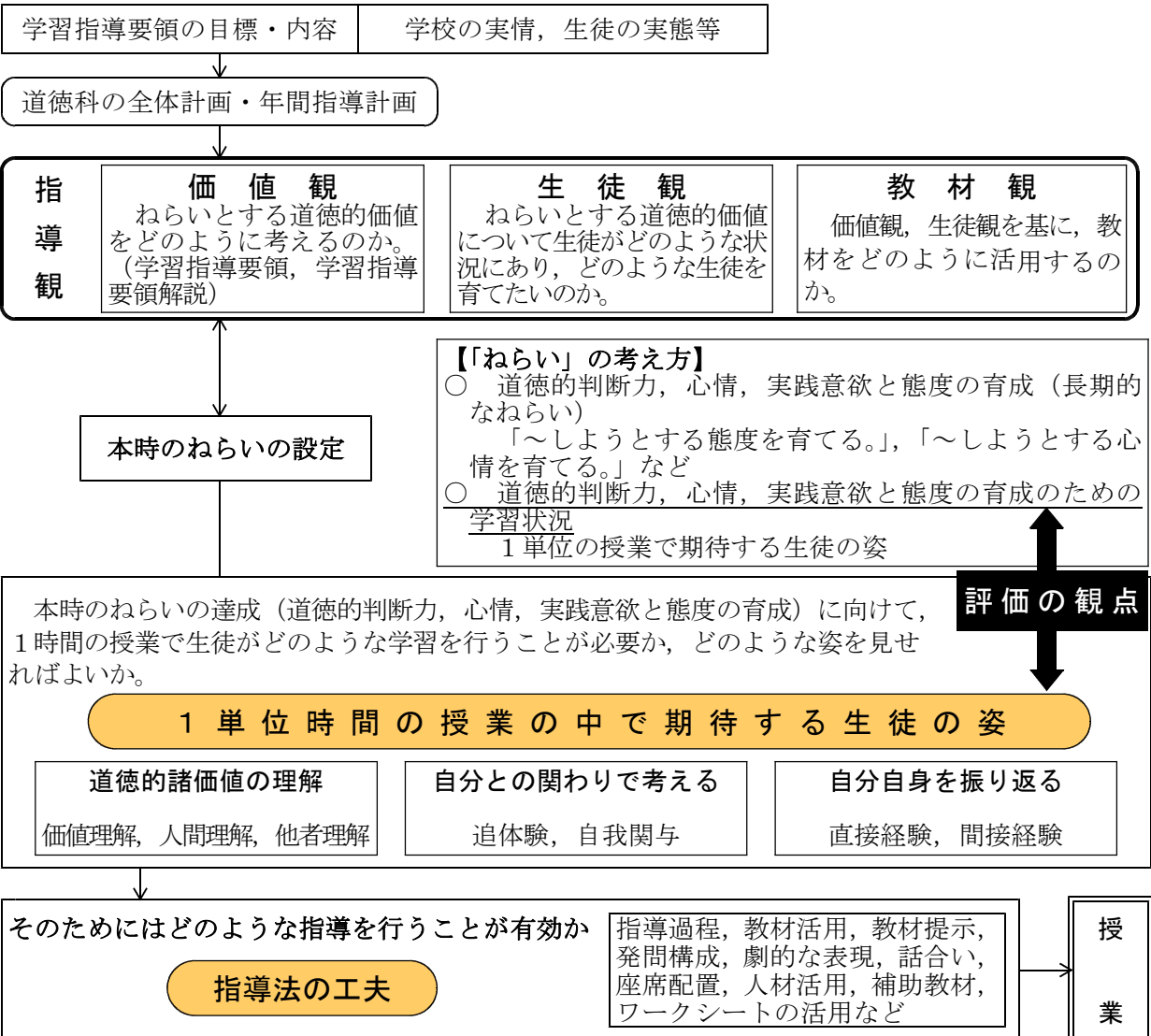


「考え、議論する道徳」に転換するためには、どのように授業を構想すればいいのですか。

道徳科の授業は、下図の手順で構想しましょう。



- ◆ 道徳科の特質を生かすために
- 道徳的諸価値の理解を深める学習
 道徳的諸価値の理解は, 「ねらいとする道徳的価値が大切であること (価値理解)」, 「大切ではあるが道徳的価値に根ざした行為は容易ではないこと (人間理解)」, 「道徳的価値に関わる感じ方・考え方は人によって様々であること (他者理解)」です。これらを重視した指導を行うことが必要です。
 - 生徒が自分との関わりで考える学習
 生徒の主體的な学習とは, 生徒がねらいとする道徳的価値に関わる諸事象などについて, 自分との関わりを実感しながら学ぶことです。授業構想に当たっては, 生徒が諸問題を自分事として捉え, 自分の体験などに基づいて考えられるようにすることが重要です。
 - ねらいとする道徳的価値を視点にして自分自身を振り返る学習
 自分自身を振り返る学習とは, 生徒一人一人がねらいとする道徳的価値に関わる行為, 考え方, 感じ方はどうだったかを, 具体的に振り返ることです。指導者は, 確固たる指導観に基づき, 生徒にどのような視点で振り返りをさせるのかを明確にする必要があります。

1 明確な指導観（価値観、生徒観、教材観）をもちましょう。

★ ポイント

道徳的価値に関わる授業者の考え方（価値観）に基づいた指導の結果としての生徒の姿（生徒観）を明確にし、教材を通して生徒に考えさせるべきこと（教材観）を確かにもった上で、授業を構想することが大切です。

◆ 価値観

授業者が授業を構想する際には、授業のねらいとそこで取り扱う道徳的価値に対して明確な考えをもつことが求められます。授業者の価値観は、道徳科の授業を構想する際にはとても重要なもので、生徒観の基盤となります。授業者が生徒の実態を的確に捉え、授業に生かすためにも、授業者が明確な価値観をもつことは欠かせません。

その根拠となるものが、学習指導要領に示されている内容項目です。道徳科の内容項目は、生徒が人間としてよりよく生きていく上で必要な道徳的価値を、認識能力や社会認識の広がり、発達の段階などを考慮して、学年段階ごとに精選して重点的に示したものです。授業を行う際には、『学習指導要領解説』に示されている内容項目の具体を参照するとともに、常に全体の構成や発展性（【資料1】）を考慮して指導していくことが大切です。

【資料1】内容項目の構成と発展性

19 生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

（小学校）[生命の尊さ]

[第1学年及び第2学年]

生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

[第3学年及び第4学年]

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

[第5学年及び第6学年]

生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

◆ 生徒観

同じ教材を使っても、生徒の実態が異なれば授業の視点や内容が違ってきます。道徳科の授業構想のためには、ねらいとする道徳的価値を視点とした生徒の実態を明らかにすることが重要です。ねらいとする道徳的価値に関わって生徒がどのような実態なのか、授業者の価値観を基に生徒がどのような状態なのかを明確にすることが、効果的な学習指導過程の構想にもつながります。

生徒の実態を明確にするためには、本時に至るまでの道徳的価値に関わって行われた指導の機会や程度についても明らかにする必要があります。このような授業者の指導の振り返りにより、不十分な点を補ったり（補充）、指導をより一層深めたり（深化）、相互の関連を考えて発展させ、統合させたり（統合）する指導を展開することになります。

◆ 教材観

様々な背景をもち、多様な感じ方や考え方の生徒に、自ら考え、他者と議論する集団思考を促すためには、共通の教材を基に学習を展開し、主体的・協働的に学び合えるようにする必要があります。

そのためには、授業者の明確な価値観や生徒観に基づいて、授業者が生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる内容がどの場面に、どのように含まれているかを検討し、道徳的価値の理解の道筋を明らかにしておくことが重要です。

2 ねらいを明確に設定しましょう。

★ ポイント

特定の道徳的価値について、道徳性のどの様相を養うのかを明確にしたねらいを設定することが大切です。

道徳科の授業のねらいは、1単位時間の授業において、その時間に授業者が指導を意図する一定の道徳的価値と、養うべき道徳性の様相を示したものです。

つまり、特定の道徳的価値について、道徳的な判断力を養うのか、道徳的な心情を養うのか、道徳的な実践意欲・態度を養うのかを明確にすることが大切です、これによって授業展開が方向付けられることとなります。

(例) 中学校「希望と勇気、努力と強い意志」

より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着
ねらいとする道徳的価値 (内容項目)

実にやり遂げようとする心情を育てる。
道徳性の様相

3 ねらいを達成するために効果的な指導方法を工夫しましょう。

★ ポイント

指導者一人一人が、授業のねらいの達成に向けて、生徒の発達やその特性、指導内容などに
応じた指導方法を選択、工夫することが大切です。

「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」(文部科学省)では、「考え、議論する道徳への転換」に向けて求められる質の高い多様な指導方法の例示として、①「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」、②「問題解決的な学習」、③「道徳的行為に関する体験的な学習」を指導方法の例を挙げています。それぞれの特長は、【資料2】のとおりです。

【資料2】道徳科の質の高い指導方法の特長

① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

② 問題解決的な学習

生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

③ 道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

これらの三つの指導方法を生かした展開例については、次頁(【資料3】、【資料4】、【資料5】)にあるとおりですが、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。それぞれに様々な展開が考えられ、また、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことが求められます。

【資料3】読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習（例）

ねらい	教材の登場人物の心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的価値の自覚を深める。
導入	<p>1 道徳的価値に関する内容の提示</p> <p>教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。</p>
展開 前 段 開	<p>2 登場人物への自我関与</p> <p>教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【教師の主な発問例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして主人公は、〇〇という行動を取ることができたのだろう。（又はできなかったのだろう。） ・ 主人公はどういう思いをもって〇〇という判断をしたのだろう。 ・ 自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか。 </div>
後段	<p>3 振り返り</p> <p>本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。</p>
終末	<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師による説話を聞く。 ・ 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。 ・ 道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 ・ 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

【資料4】問題解決的な学習（例）

ねらい	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
導入	<p>1 問題の発見や道徳的価値の想起など</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材や日常生活から道徳的な問題を見付ける。 自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いをもつ（原理・根拠・適用への問い）。
展開	<p>2 問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など）</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え、議論を深める。 グループでの話し合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【教師の主な発問例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ここでは、何が問題になっていますか。 何と何で迷っていますか。 なぜ、■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 どうすれば■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょうか。 同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。 なぜ、自分はそのように行動するのでしょうか。 よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。 </div> <p>3 探究のまとめ（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見）</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなどについて話し合う等を通じて、考えを深める。 問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。
終末	<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師による説話を聞く。 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。 道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

【資料5】道徳的行為に関する体験的な学習（例）

ねらい	<p>役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。</p>
導入	<p>1 道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・ 日常生活で、大切だと分かっているにもかかわらず実現できない道徳的行為を想起し、問題意識をもつ。
<p>展 段</p> <p>前</p> <p>後</p> <p>開</p> <p>段</p>	<p>2 道徳的な問題場面の把握や考察など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・ 価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 <p>3 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・ 実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>4 道徳的価値の意味の考察など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことを基に、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・ 同様の新たな場면을提示して、取り得る行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体験することを通して、実生活における問題の解決に見通しをもつ。
終末	<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師による説話を聞く。 ・ 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。 ・ 道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 ・ 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。